



平成26年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年11月4日

上場取引所 東

上場会社名 アース製薬株式会社
 コード番号 4985 URL <http://www.earth-chem.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 川端 克宜
 問合せ先責任者 (役職名) 役員待遇 経営企画部部长 (氏名) 三枚堂 正悟

TEL 03-5207-7458

四半期報告書提出予定日 平成26年11月7日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年12月期第3四半期の連結業績(平成26年1月1日～平成26年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期純利益 | |
|--------------|---------|-----|--------|------|--------|------|--------|------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 26年12月期第3四半期 | 119,132 | 4.8 | 13,421 | 0.2 | 14,126 | 0.5 | 7,732 | △3.0 |
| 25年12月期第3四半期 | 113,635 | 8.2 | 13,392 | 20.5 | 14,061 | 22.0 | 7,971 | 31.6 |

(注) 包括利益 26年12月期第3四半期 8,264百万円 (△9.6%) 25年12月期第3四半期 9,145百万円 (43.8%)

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 |
|--------------|-------------|--------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 26年12月期第3四半期 | 382.85 | — |
| 25年12月期第3四半期 | 394.68 | — |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|--------------|---------|--------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 26年12月期第3四半期 | 104,336 | 54,323 | 47.1 |
| 25年12月期 | 85,796 | 48,406 | 50.6 |

(参考) 自己資本 26年12月期第3四半期 49,150百万円 25年12月期 43,452百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 25年12月期 | — | 0.00 | — | 105.00 | 105.00 |
| 26年12月期 | — | 0.00 | — | — | — |
| 26年12月期(予想) | — | — | — | 110.00 | 110.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年12月期の連結業績予想(平成26年1月1日～平成26年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり当期純利益 |
|----|---------|-----|-------|------|-------|------|-------|-----|------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 141,646 | 4.4 | 6,790 | 24.7 | 7,401 | 14.4 | 3,213 | 7.6 | 159.10 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 有
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 有
 - ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 5「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

| | | | | |
|---------------------|-----------|--------------|-----------|--------------|
| ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 26年12月期3Q | 20,200,000 株 | 25年12月期 | 20,200,000 株 |
| ② 期末自己株式数 | 26年12月期3Q | 3,987 株 | 25年12月期 | 3,891 株 |
| ③ 期中平均株式数(四半期累計) | 26年12月期3Q | 20,196,069 株 | 25年12月期3Q | 20,196,337 株 |

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------|----|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 4 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 4 |
| 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 | 5 |
| (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 | 5 |
| (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 | 5 |
| (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 | 5 |
| 3. 四半期連結財務諸表 | 6 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 6 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 8 |
| 四半期連結損益計算書 | 8 |
| 四半期連結包括利益計算書 | 10 |
| (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 11 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 11 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 11 |
| (セグメント情報等) | 11 |
| (重要な後発事象) | 12 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、本年4月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動が徐々に緩和しつつあるものの、これまでの個人消費の持ち直しの動きや企業収益の改善に陰りが見られるなど、景気の先行きには予断を許さない状況であります。

このような状況のなか、当社グループは「ベストクオリティで世界と共生」の基本理念のもと“お客様の満足感・信頼感の向上”を目指し、引き続き「安全、安心、快適な生活空間の創造に貢献」をテーマに、創造的・革新的な製品開発及び独創的な衛生管理サービスの提供を行いました。また、積極的な営業展開やコスト削減の推進、経営資源の有効活用などを通じて、売上・利益の拡大に努めました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は1,191億32百万円(前年同期比4.8%増)、営業利益は134億21百万円(前年同期比0.2%増)、経常利益は141億26百万円(前年同期比0.5%増)、四半期純利益は77億32百万円(前年同期比3.0%減)となりました。

なお、当社グループは殺虫剤の売上構成比が高く、売上高が3月～7月に偏るとい季節性がある一方、人件費等の固定費は年間を通じてほぼ均等に発生するため、四半期毎の売上高や利益には相応の影響があります。

また、当第3四半期連結会計期間において、当社の新設子会社である白元アース株式会社が株式会社白元の事業を譲受けましたが、平成26年9月30日をみなし取得日としているため、白元アース株式会社の業績は当第3四半期連結累計期間における四半期連結損益計算書には含まれておりませんが、四半期連結貸借対照表には反映されております。

セグメントの業績の概要は次のとおりであります。

〔家庭用品事業〕

家庭用品事業におきましては、企業間における激しい競争が続くなか、本年4月の消費税率引上げ前後で生じた個人消費の動向の変化が、当社グループの取り扱う製品の消費に若干ながら影響を及ぼす状況でした。

このような状況のなか、殺虫剤や園芸用品を中心とした新製品の発売や、殺虫剤の早期展開をはじめとした売場展開の強化、広告宣伝・販売促進にかかるマーケティング関連費用の積極的な投入などにより、市場の活性化と売上・利益の拡大に努めました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における当事業の売上高は1,099億54百万円(前年同期比5.8%増)、セグメント利益(営業利益)は122億77百万円(前年同期比3.2%増)となりました。

(家庭用品事業の業績)

(単位:百万円)

| | 前第3四半期 連結累計期間 | 当第3四半期 連結累計期間 | 増減額 | 増減率 |
|---------------|------------------|------------------|-------|-------|
| 殺虫剤部門 | 52,929 | 55,901 | 2,971 | 5.6% |
| 日用品部門 | 45,300 | 48,362 | 3,061 | 6.8% |
| 口腔衛生用品 | 22,957 | 24,152 | 1,194 | 5.2% |
| 入浴剤 | 10,176 | 11,043 | 866 | 8.5% |
| その他日用品 | 12,165 | 13,166 | 1,000 | 8.2% |
| ペット用品・その他部門 | 5,742 | 5,691 | △50 | △0.9% |
| 売上高合計 | 103,972 | 109,954 | 5,982 | 5.8% |
| セグメント利益(営業利益) | 11,900 | 12,277 | 376 | 3.2% |

(注) 売上高にはセグメント間の内部売上高又は振替高が含まれております。その金額は、前第3四半期連結累計期間では3,987百万円、当第3四半期連結累計期間では5,091百万円です。

部門別の主な状況は次のとおりであります。

殺虫剤部門

殺虫剤部門において、市場は5月以降の最高気温が前年を下回ったこと、また8月の記録的豪雨・日照不足など異常気象の影響を受けたことで低調に推移しましたが、8月下旬に東京で感染が確認されたデング熱の発生を受け、ハエ・蚊用殺虫剤、虫よけ剤を中心にシーズン終盤の店頭消化が著しく増加したことで、前年並みとなりました。そのなかで、当社の市場シェア(自社推計)は54.4%(前年同期比0.5ポイント増)と着実に拡大しました。

このような状況のなか、『バボナ虫よけネットW1年用』をはじめとした長日数タイプの吊り下げ虫よけやすプレー式蚊とり『おすだけノーマット クリアタイプ 240回分』、不快害虫用殺虫剤『凍らすジェット冷凍殺虫』などの新製品が売上に寄与したほか、園芸用品では、除草剤(非農耕地用)の『うちの草コロリ』シリーズが売上を大きく伸ばしたことで、当部門全体の売上高は559億1百万円(前年同期比5.6%増)となりました。

日用品部門

口腔衛生用品分野においては、入れ歯関連用品『ポリデント』・『ポリグリップ』は前年並みでありましたが、知覚過敏予防ハミガキ『シュミテクト』の大幅な伸長や、洗口液『モンダミン』の順調な売上増などにより、売上高は241億52百万円(前年同期比5.2%増)となりました。

入浴剤分野においては、主要ブランドである『バスロマン』、『きき湯』が売上を伸ばしたほか、秋に発売した新製品の出荷が寄与したことで売上高は110億43百万円(前年同期比8.5%増)となりました。

その他日用品分野においては、芳香剤の新製品『消臭アロマパレット トイレ用アロマミスト』が寄与したほか、衣類用防虫剤『ピレバラアース』などが売上を伸ばしたことで、売上高は131億66百万円(前年同期比8.2%増)となりました。

以上の結果、当部門全体の売上高は483億62百万円(前年同期比6.8%増)となりました。

ペット用品・その他部門

ペット用品・その他部門においては、売上高は56億91百万円(前年同期比0.9%減)となりました。

[総合環境衛生事業]

総合環境衛生事業におきましては、主要な顧客層である食品関連工場、医薬品・化粧品関連工場、包材関連工場が、原料やエネルギーコスト高を背景に経費削減への動きを強めていますが、一方で「安全・安心」に対する意識は高く、高品質の衛生管理サービスを求められる状況でありました。

このような状況のなか、引き続き技術開発力の強化を図り、差別化された品質保証サービスの開発に努めるとともに、各取引先の状況に応じた費用対効果の高いサービスの導入を通じて、契約の維持・拡大を図りました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における当事業の売上高は143億83百万円(前年同期比4.5%増)、セグメント利益(営業利益)は13億78百万円(前年同期比7.3%増)となりました。

(総合環境衛生事業の業績)

(単位:百万円)

| | 前第3四半期 連結累計期間 | 当第3四半期 連結累計期間 | 増減額 | 増減率 |
|---------------|------------------|------------------|-----|------|
| 売上高 | 13,761 | 14,383 | 621 | 4.5% |
| セグメント利益(営業利益) | 1,284 | 1,378 | 93 | 7.3% |

(注) 売上高にはセグメント間の内部売上高又は振替高が含まれております。その金額は、前第3四半期連結累計期間では109百万円、当第3四半期連結累計期間では114百万円です。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間における総資産は、前連結会計年度末に比べて185億40百万円増加し、1,043億36百万円となりました。これは、現金及び預金、売上債権、棚卸資産が増加したほか、白元アース㈱の新規連結に伴い主に建物及び構築物、土地などの有形固定資産が増加したことなどによるものです。

当第3四半期連結会計期間における負債は、前連結会計年度末に比べて126億23百万円増加し、500億13百万円となりました。これは、仕入債務、未払法人税等、返品調整引当金が増加したことなどによるものです。

当第3四半期連結会計期間における純資産は、前連結会計年度末に比べて59億16百万円増加し、543億23百万円となりました。これは主に、利益剰余金が増加したことによるものです。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べて3.5ポイント低下し、47.1%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、100%子会社である白元アース株式会社を新設し、平成26年9月1日付で株式会社白元の事業の一部及び同子会社の株式を譲り受けましたが、現時点で連結業績に与える影響額を合理的に見込むことは困難であるため、平成26年8月5日に公表した通期の連結業績予想は変更しておりません。見込まれる影響額が判明次第、速やかに公表する予定としております。

なお、本業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、様々な要因の変化により実際の業績とは大きく異なる場合があります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、有形固定資産の減価償却方法についてこれまで主として定率法を採用していましたが、第1四半期連結会計期間より定額法に変更いたしました。

当社及び連結子会社では、第1四半期連結会計期間より開始した新中期経営計画(平成26年度～平成28年度)において、海外展開の拡充は重要課題として認識しており、現地法人のある中国、タイを主な展開地域に定め、海外売上高の拡大と、日本向け製品の生産の充実を図ることによるグローバルな生産体制を確立する方針であります。そこで、今後の設備投資は海外拠点への配分を増やしていく一方、国内については市場の需要に見合った維持・更新や生産合理化を目的とした投資へシフトすることを計画しております。そのため、これを契機として有形固定資産の使用実態を検討した結果、近年、国内市場規模は安定的に推移しており、将来的にも安定して推移することが見込まれることから、主要な設備は長期安定的に稼働し収益に安定的に貢献していくことが予想されるため、減価償却方法を定率法から定額法に変更することが経済実態をより適切に反映すると判断いたしました。

この変更により、従来の方法によった場合に比べ、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益がそれぞれ362百万円増加しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成25年12月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成26年9月30日) |
|------------------|--------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 13,043 | 15,936 |
| 受取手形及び売掛金 | 15,842 | 21,915 |
| 有価証券 | 84 | - |
| 商品及び製品 | 12,654 | 15,560 |
| 仕掛品 | 728 | 731 |
| 原材料及び貯蔵品 | 3,481 | 3,145 |
| 繰延税金資産 | 1,771 | 2,546 |
| その他 | 1,849 | 2,300 |
| 貸倒引当金 | △25 | △217 |
| 流動資産合計 | 49,431 | 61,917 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物 | 19,432 | 21,653 |
| 減価償却累計額及び減損損失累計額 | △10,590 | △10,910 |
| 建物及び構築物(純額) | 8,841 | 10,743 |
| 機械装置及び運搬具 | 9,371 | 9,918 |
| 減価償却累計額 | △7,732 | △7,857 |
| 機械装置及び運搬具(純額) | 1,638 | 2,060 |
| 土地 | 6,356 | 8,450 |
| リース資産 | 21 | 551 |
| 減価償却累計額 | △18 | △21 |
| リース資産(純額) | 3 | 530 |
| 建設仮勘定 | 309 | 57 |
| その他 | 5,942 | 6,364 |
| 減価償却累計額 | △5,363 | △5,401 |
| その他(純額) | 578 | 962 |
| 有形固定資産合計 | 17,727 | 22,804 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | 13,974 | 14,204 |
| リース資産 | 2 | 1 |
| その他 | 619 | 708 |
| 無形固定資産合計 | 14,596 | 14,914 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 2,886 | 3,309 |
| 繰延税金資産 | 184 | 42 |
| その他 | 1,023 | 1,355 |
| 貸倒引当金 | △52 | △7 |
| 投資その他の資産合計 | 4,041 | 4,699 |
| 固定資産合計 | 36,365 | 42,419 |
| 資産合計 | 85,796 | 104,336 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成25年12月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成26年9月30日) |
|---------------|--------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 18,661 | 22,156 |
| 短期借入金 | 1,330 | 2,189 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 1,408 | 1,619 |
| 未払法人税等 | 1,814 | 4,577 |
| 未払消費税等 | 441 | 1,499 |
| 未払金 | 5,106 | 6,100 |
| 賞与引当金 | 322 | 1,152 |
| 返品調整引当金 | 771 | 3,494 |
| その他 | 2,413 | 2,640 |
| 流動負債合計 | 32,270 | 45,431 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 2,826 | 1,937 |
| 繰延税金負債 | 14 | 264 |
| 退職給付引当金 | 1,086 | 533 |
| 役員退職慰労引当金 | 284 | 122 |
| 資産除去債務 | 205 | 448 |
| その他 | 702 | 1,275 |
| 固定負債合計 | 5,119 | 4,581 |
| 負債合計 | 37,390 | 50,013 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 3,377 | 3,377 |
| 資本剰余金 | 3,168 | 3,168 |
| 利益剰余金 | 35,792 | 41,404 |
| 自己株式 | △11 | △11 |
| 株主資本合計 | 42,327 | 47,938 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 620 | 605 |
| 為替換算調整勘定 | 503 | 606 |
| その他の包括利益累計額合計 | 1,124 | 1,212 |
| 少数株主持分 | 4,954 | 5,172 |
| 純資産合計 | 48,406 | 54,323 |
| 負債純資産合計 | 85,796 | 104,336 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日) |
|--------------|---|---|
| 売上高 | 113,635 | 119,132 |
| 売上原価 | 68,187 | 71,584 |
| 売上総利益 | 45,448 | 47,548 |
| 販売費及び一般管理費 | | |
| 運送費及び保管費 | 3,019 | 3,211 |
| 広告宣伝費 | 6,151 | 6,556 |
| 販売促進費 | 3,890 | 4,660 |
| 貸倒引当金繰入額 | 12 | 5 |
| 給料及び手当 | 7,245 | 7,535 |
| 賞与引当金繰入額 | 795 | 824 |
| 役員退職慰労引当金繰入額 | 25 | 13 |
| 旅費及び交通費 | 1,082 | 1,084 |
| 減価償却費 | 378 | 320 |
| のれん償却額 | 1,284 | 1,270 |
| 地代家賃 | 599 | 626 |
| 研究開発費 | 1,442 | 1,583 |
| その他 | 6,129 | 6,432 |
| 販売費及び一般管理費合計 | 32,056 | 34,126 |
| 営業利益 | 13,392 | 13,421 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 13 | 8 |
| 受取配当金 | 22 | 24 |
| 為替差益 | 32 | 165 |
| 受取ロイヤリティー | 259 | 149 |
| 受取手数料 | 140 | 133 |
| 受取家賃 | 97 | 82 |
| その他 | 153 | 184 |
| 営業外収益合計 | 719 | 747 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 44 | 30 |
| 投資事業組合運用損 | 0 | - |
| たな卸資産廃棄損 | 0 | 3 |
| その他 | 4 | 8 |
| 営業外費用合計 | 50 | 42 |
| 経常利益 | 14,061 | 14,126 |

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日) |
|-----------------|---|---|
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 4 | 2 |
| 投資有価証券売却益 | 2 | 14 |
| 受取保険金 | 201 | - |
| 特別利益合計 | 209 | 16 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産売却損 | 0 | 0 |
| 固定資産除却損 | 8 | 104 |
| 事務所移転費用 | - | 44 |
| 厚生年金基金脱退損失 | - | 144 |
| 特別損失合計 | 8 | 294 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 14,262 | 13,848 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 6,464 | 6,034 |
| 法人税等調整額 | △624 | △372 |
| 法人税等合計 | 5,839 | 5,662 |
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 8,422 | 8,186 |
| 少数株主利益 | 451 | 454 |
| 四半期純利益 | 7,971 | 7,732 |

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日) |
|-----------------|---|---|
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 8,422 | 8,186 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 322 | △24 |
| 為替換算調整勘定 | 399 | 102 |
| その他の包括利益合計 | 722 | 78 |
| 四半期包括利益 | 9,145 | 8,264 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 8,680 | 7,819 |
| 少数株主に係る四半期包括利益 | 464 | 445 |

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | 調整額 (注)1 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2 |
|-----------------------|---------|--------------|---------|-------------|-------------------------------|
| | 家庭用品事業 | 総合環境 衛生事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 99,984 | 13,651 | 113,635 | — | 113,635 |
| セグメント間の内部 売上高又は振替高 | 3,987 | 109 | 4,097 | △4,097 | — |
| 計 | 103,972 | 13,761 | 117,733 | △4,097 | 113,635 |
| セグメント利益 | 11,900 | 1,284 | 13,185 | 206 | 13,392 |

(注) 1. セグメント利益の調整額206百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成26年1月1日至平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | 調整額 (注)1 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2 |
|-----------------------|---------|--------------|---------|-------------|-------------------------------|
| | 家庭用品事業 | 総合環境 衛生事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 104,863 | 14,268 | 119,132 | — | 119,132 |
| セグメント間の内部 売上高又は振替高 | 5,091 | 114 | 5,205 | △5,205 | — |
| 計 | 109,954 | 14,383 | 124,338 | △5,205 | 119,132 |
| セグメント利益 | 12,277 | 1,378 | 13,655 | △233 | 13,421 |

(注) 1. セグメント利益の調整額△233百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

前連結会計年度の末日に比して、当第3四半期連結会計期間の報告セグメントごとの資産の金額が著しく変動しております。その概要は、以下のとおりです。

当第3四半期連結会計期間より、新たに設立した白元アース㈱を連結の範囲に含めたことに伴い、同社の資産を「家庭用品事業」セグメントに計上いたしました。

なお、前連結会計年度末に比べて増加した「家庭用品事業」セグメントの資産の金額は、当第3四半期連結会計期間においては23,645百万円であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計上の見積もりの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載のとおり、当社及び国内連結子会社は、有形固定資産の減価償却方法についてこれまで主として定率法を採用しておりましたが、第1四半期連結会計期間より定額法に変更いたしました。

この変更により、従来の方法によった場合に比べ、当第3四半期連結累計期間のセグメント利益が、「家庭用品事業」で346百万円、「総合環境衛生事業」で16百万円増加しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結会計期間より、新たに設立した白元アース㈱を通じて、㈱白元の有する事業の一部を譲り受け、白元アース㈱を連結の範囲に含めました。これに伴い、「家庭用品事業」セグメントにおけるのれんの金額が増加しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては1,499百万円であります。また、のれんの金額は取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算出された金額であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。